

(様式2)

# 令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書 【最終報告】

関市立関商工高等学校 定時制課程

学校番号 63-10

## I 自己評価

1 学校教育目標	「至誠明朗」の校訓を体し、知・徳・体の調和のとれた創造的・人間性豊かな実践力のある地域社会人の育成を図る。	
2 評価する領域・分野	◇学校経営	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	多くの生徒が小・中学校で経験した学習への不安、学校生活への不安を抱えた状態で入学しているが、本校での生活には、生徒・保護者ともに概ね良い印象を持っている。しかし、将来に対する具体的な目標が持てず、漫然と学校生活を送っている生徒が多く、学業や学校生活に積極的に取り組む姿勢が弱いのが現状である。生徒が置かれた生活環境も多様化しており、具体的な支援・指導における、保護者・生徒と学校の連携のあり方を今後改善していく必要がある。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇授業を主体的な学びの場とするための効果的なICTの活用方法を模索し、基礎学力の定着と、自ら学び自ら考える力を育成する。 ◇基本的な生活習慣の育成と、豊かな人間性と社会性の伸長に努める。 ◇高校生活を自分探し、自分創りの場と捉えさせ、主体的に進路を選択できる能力や態度を育成する。 ◇生徒の多様化に対応し、生徒一人ひとりをよく理解し、全職員の共通理解のもとに、個に寄り添った支援・指導を推進する。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・職員会議、各種会議(部長会議、分掌会議、工業科会議等) ・職員連絡会(週3日実施) ・各種委員会(生徒指導、進路指導等、研究推進)	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1)ICTを活用した主体的な学びの提供 (2)全職員による授業、集会時における規律指導 (3)全職員による進路指導と外部機関との連携 (4)校内巡視と登下校時の声かけ支援・指導 (5)研究推進委員会の開催と研修・情報共有	(1)学校評価・学校生活アンケートの集計結果 (2)欠席、遅刻、欠課時数の集計結果 (3)行事後のアンケート結果や迷惑調査の集計結果 (4)公開日等の保護者、外部講師のアンケート結果	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・効果的にICTを活用した授業実践を行い、職員間で情報共有しながら授業改善を行う。 ・登下校時、授業時、集会時など様々な場面で見逃さない指導、声かけを積極的に推進する。 ・進路先の開拓とともに、職業観の育成を目指したキャリア教育関連事業を推進する。 ・職員の情報の共有、地域・保護者との情報交流を大切にする。	① 生徒が主体的に授業に参加しているか。 ② 時間厳守の習慣や社会的なマナーが向上したか。 ③ 生徒一人ひとりにあった進路実現ができたか。 ④ 職員の共通理解を図り、組織が有効に機能したか。	A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>
11 成果・課題	○習熟度別・少人数授業の実施、ICTを活用した教材提示の工夫、授業展開の工夫により、生徒主体のわかる楽しさを実感できる授業を実践している。 ○職員間の情報共有・共通理解により、多様化する生徒個々の状況に応じた生徒の支援・指導を組織的に行っている。 ▲欠席遅刻の多い生徒もおり、将来像を明確にしていく過程で、生徒自らに自分に求められる社会性や規範意識に気づかせ、身につけさせる必要がある。 ▲新型コロナウイルス感染症の流行により学校生活は制約・制限され、行事が相次いで縮小・延期・中止となった。先の見通せない世の中においても、たくましく生き抜く力をつけるべく教育活動を展開する必要がある。	
12 来年度に向けての改善方策案	・生徒の多様化に対応し、生活面・学習面における具体的な指導・支援の方策を研究する。 ・生徒主体の運営ができ、全校生徒が主体的に取り組めるような行事のあり方を工夫する。 ・キャリア教育の計画的推進と外部機関等と連携したガイダンス機能の充実を図る。 ・ICTの活用を推進し、教員のスキルアップと生徒の状況に合わせた指導への意識を向上させる。	

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年1月27日（書面開催）

・生活が豊かになって働きながら勉学に励もうとする人間が育っているかと疑問に思うことがある。そんな中で、真剣に定時制の学校運営に取り組んでおられる関商工高校にエールを送りたい気持ちでいっぱいです。

# 令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書【最終報告】

関市立関商工高等学校 定時制課程

学校番号 63-10

## I 自己評価

1 学校教育目標	「至誠明朗」の校訓を体し、知・徳・体の調和のとれた創造的・人間性豊かな実践力のある地域社会人の育成を図る。		
2 評価する領域・分野	◇教務部		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導において、教員の取り組みに対し、保護者・生徒ともに肯定的に捉えている。</li> <li>・習熟度別授業、少人数指導、補充指導、補習など個々に応じた指導の評価は高い。</li> </ul>		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇基礎的・基本的な内容の充実と発展を図り、生徒の主体的な学習態度の育成に努め、自ら学び自ら考える力を育成する。</li> <li>◇生徒の実態に即した学習指導を工夫し、個に応じたきめ細かな指導に努め、学ぶ楽しさを実感できる授業展開に努める。</li> <li>◇指導内容の重点化と教材の精選を進めて、生徒の興味・関心を喚起し、成就感・達成感が得られる魅力ある授業づくりに努める。</li> <li>◇基礎的な国語力・計算力の向上を目的として、個々の目標及び習熟の程度に応じた指導による基礎・基本の向上と、「学び直し」を意識した義務教育段階の学習内容の確実な定着を図るように努める。</li> </ul>		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員会議</li> <li>・週3回の職員連絡会</li> <li>・教務部会</li> </ul>		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1)確かな基礎学力の向上 (2)習熟度別授業、少人数授業による指導、長期休暇中の補充指導 (3)授業規律の確立	(1)生徒の理解度に即した教材と指導方法の研究。 (2)全職員の共通理解と生徒への指導の徹底。 (3)きめ細かな指導とコミュニケーションを図り、基礎学力の定着に努める。		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・普通科目による工夫したプリント学習による基礎・基本的な学力と学習意欲の向上</li> <li>・習熟度別授業、少人数指導、TTの実施による生徒の実態に即した学習指導</li> <li>・「授業中に守るべきこと」に基づく授業規律の確立</li> <li>・欠課時数過多者への段階的な指導</li> </ul>	①授業への主体的な参加ができたか。理解しやすいか。興味・関心を引き出せたか。 ②積極的に取り組み、理解したうえで疑問を持てたか。 ③授業等の指導が成果として現れているか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>	
11 成果課題	○実習では安全教育の徹底を図り、ものづくりの心構えを学習できた。 ○資格取得に向けて取り組む姿勢が見られるようになった。 ▲自己実現へ向けての学習意欲を引き出す工夫がさらに進める必要がある。 ▲社会人として求められるコミュニケーション能力を身に付けるため、より一層の工夫が必要である。		総合評価 A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の学力に応じた基礎学力定着のための学習指導方法と教材研究に引き続き取り組む。</li> <li>・専門教科への興味・関心を高め、目標を決めて主体的に学習に取り組む体制をつくる。</li> <li>・授業への心構えを向上させ、生徒がICT機器を活用できる授業の推進に取り組む。</li> <li>・コミュニケーション能力を身に付けるための指導をさらに工夫する。</li> </ul>		

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年1月27日（書面開催）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・昼間の勤務後また、夜間の学習は大変だと感心する思いです。ただ卒業資格は重要ですが、その大変な中で現在から今後に向けての自分磨きをし、楽しさを感じられるように教育指導を望みます。</li> <li>・中学校時代に様々な問題を抱えて入学してくる生徒が少なくないと思います。</li> </ul>
---

# 令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書【最終報告】

関市立関商工高等学校 定時制課程

学校番号 63-10

## I 自己評価

1 学校教育目標	「至誠明朗」の校訓を体し、知・徳・体の調和のとれた創造的・人間性豊かな実践力のある地域社会人の育成を図る。	
2 評価する領域・分野	◇生徒指導部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・「個々の生徒に合った生徒指導」、「マナーや規範意識を身に付けさせている」、「いじめや差別への厳しい対応」、「体罰の防止」の全ての項目で、大半の生徒および保護者から肯定的な意見を得ている。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇基本的な生活習慣の育成を図り、授業規律の確立と健康的な生活規律の育成に努める。 ◇生徒一人一人を正しく深く理解し、信頼と愛情のある指導に努め、個々の生徒に応じた指導と助言を行う。 ◇問題行動の早期発見・早期指導に努め、特に、いじめ・不登校・暴力行為・性の問題・薬物乱用などには全職員が危機意識を持ち、共通理解のもと全校体制で指導に当たる。 ◇一人一人が自己の存在感や所属感を味わい、命の尊さや、倫理観、規範意識を体得できるような指導に努め、豊かな人間性を育てる。 ◇家庭をはじめ、小中学校、雇用主や関係機関と連携を密にし、情報交換を通して、学校ぐるみ、地域ぐるみの生徒指導を推進する。 ◇生徒の能力・興味・個性等を十分把握し、自己理解を深め自己実現を図るため、全学年を通して計画的・組織的な指導に努める。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・いじめ防止対策委員会、生徒指導委員会 ・職員連絡会での生徒情報交換	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 基本的な生活習慣の確立	(1) 学業と仕事の両立に努力し、時と場に応じた行動をとることができる。	
(2) 交通・安全指導	(2) 命の大切さを忘れず、「4ない運動」を遵守し、交通ルール・マナーを守ることができる。	
(3) 教育相談の充実	(3) 不登校やいじめに適切な対応をとり、生徒が安心して学校生活を送ることができる。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・基本的な生活習慣の確立 ○授業規律の確立 ○式・集会指導 ○生活全般の指導 ・交通・安全指導 ○「4ない運動」の徹底 ○交通講話、薬物乱用防止講話等の実施 ・教育相談の充実 ○全職員による生徒理解 ○テストバッテリーM2+、hyper-QU、シグマ検査、迷惑調査の実施	①基本的な生活習慣を身に付けさせるため、全職員が共通認識のもとで生徒指導にあたることができたか。 ②職員間での共通理解を図って、問題行動や問題の未然防止に組織的な対応をすることができたか。 ③生徒の変化を見逃さず、生徒のためを思った適切な生徒指導(教育相談)ができたか。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	○自転車点検や下校時の交通指導を通して、生徒の交通事故を防ぐための指導ができた。 ○各種検査やスクールカウンセラーを活用し、個々の生徒の理解を深め、生徒の相談に当たることができた。 ▲新型コロナウイルス感染防止への対応も含め、生徒の欠席が多くなった。健康管理を意識させながら、学習意欲を高める指導に苦慮した。	総合評価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案	・学校行事や集会指導を通して、生徒が学校に通う目的意識を持たせる指導に努める。	

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年1月27日（書面開催）

・コロナ禍の影響もあるのか、遅刻や欠席が多くなっているようですが、こうした遅刻や欠席がいじめにつながるようにご指導をお願いしたいと存じます。 ・先生方の多大な苦労はありますが、生徒一人一人の個性を生かせる場があることを教えてほしい。
---

# 令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書【最終報告】

関市立関商工高等学校 定時制課程

学校番号 63-10

## I 自己評価

1 学校教育目標	「至誠明朗」の校訓を体し、知・徳・体の調和のとれた創造的・人間性豊かな実践力のある地域社会人の育成を図る。	
2 評価する領域・分野	◇進路渉外部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>・「学校は、生徒に適した進路情報を示し、生徒の可能性を引き出そうとしている。」の問いに保護者73%、生徒78%は概ねあてはまると回答。</p> <p>・「学校は、生徒の進路希望に沿った適切な進路指導をしている。」の問いに保護者77%、生徒78%は概ねあてはまると回答。</p> <p>・上の問に対して、生徒の回答に「わからない」が3名。保護者の回答に「わからない」が名。「まったくあてはまらない」は生徒の回答にも保護者にも無かった。</p> <p>多様化した生徒の能力や適性を把握し、適切な進路情報が必要である。</p> <p>・保護者懇談の機会などに生徒の置かれた社会的な実情を伝え、卒業後の進路実現につなげることが大切である。</p>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>◇早い段階から将来の自己の在り方生き方を考えさせ職業意識を高める。</p> <p>◇教科指導やホームルーム活動等を通してキャリア教育を推進する。</p> <p>◇勤労体験を通して、勤労観・職業観を育成する。</p>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・担任を中心に全職員で取り組む。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1)職業意識のための外部講師の活用 (2)キャリア教育の推進のための進路行事 (3)勤労観・職業観の育成のための勤労学生の推進	(1)講話や進路行事後のアンケート (2)就労先の紹介と就労(アルバイト)状況 (3)就職希望者の内定率 (4)卒業までに進路決定	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>外部講師の活用</li> <li>進路オリエンテーション、進路ガイダンス</li> <li>進路希望調査と進路相談の充実(全学年)</li> <li>進路実現のための面接や履歴書についての指導</li> </ul>	<p>① 勤労観・職業観が身に付いたか。</p> <p>② 進路情報が伝わり、進路選択に役立ったか。</p> <p>③ 卒業後の進路が決定できたか。</p>	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>
11 成果・課題	<p>○今年度は教員が関市主催の工場参観日に参加し、人事の方に定時制の説明と来年度の求人をお願いした。</p> <p>○継続してアルバイトをすることが大きな成長につながっている。勤労の推進を進めた。</p> <p>△年内に進路決定の実現に向け、3者懇談で本人や保護者の希望を確認した。履歴書や面接の指導を繰り返し行い、就職内定に繋げた。</p> <p>▲落ち着いて考え、いろいろな場面に対応した行動ができるようになる。</p>	
12 来年度に向けての改善方策案	<p>「企業が求める生徒像」に近づくためのキャリア教育の推進や、基礎学力を定着させることでスキルを高め、コミュニケーション能力を向上させる。</p>	

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年1月27日(書面開催)

<p>・様々なバックグラウンドを持つ定時制の生徒が未来に希望を持つために、自己肯定感、成功体験をさせることが必要だと思う。達成感が得られる授業作りにはすでに取り組まれているようですので、孤立せず人とつながるということを取り入れてはどうでしょうか。このような成功経験や人とのつながりの蓄積が生徒の居場所作りになるように思います。全く学校に関係のない大人と関わることで自分自身の未来について考えていくことができると思います。ただし、生徒を否定せずに、認める大人であることも必要です。</p>
---

# 令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書【最終報告】

関市立関商工高等学校 定時制課程

学校番号 63-10

## I 自己評価

1 学校教育目標	「至誠明朗」の校訓を体し、知・徳・体の調和のとれた創造的・人間性豊かな実践力のある地域社会人の育成を図る。	
2 評価する領域・分野	◇保健厚生部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・健康管理・安全指導の項目については、77%の保護者、約91%の生徒から「よく当てはまる」、「やや当てはまる」の評価をいただいた。非常変災時の対応についての周知が82%の保護者、約82%の生徒から「よく当てはまる」、「やや当てはまる」の評価をいただいた。昨年度より、保護者の健康管理・安全指導、防災意識共にかなり低下している。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇運動に親しみ、進んで健康に関する情報(食事・運動・休養及び睡眠)を取得し、健康で安全な生活を送る態度を育てる。 ◇「保健だより」を通じて、食事・運動・休養・睡眠・定期検診・医療機関での受診および治療等の重要性を啓発し、健康被害や事件および事故災害の未然防止に努める。 ◇自ら環境整備に取り組み、快適な学習環境を整える態度を育む。 ◇防災に関する意識を高め、緊急時に適切な対応を図れるよう支援する。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・スクールカウンセリング ・教育相談及び懇談(三者懇談年2回、二者懇談年1回) ・職員連絡会(週3回)による生徒情報交換会 ・生徒保健委員会	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 健康教育の推進 (2) 各種検診の実施と事後指導 (3) 学校環境の改善と美化 (4) 安全教育・防災教育	(1) 新型コロナウイルス感染症対策の指導と生徒実態調査 (2) 各種健康診断(生徒・職員)、二次検査・治療の勧告 (3) 安全点検、環境衛生各種検査、教室日常点検、年2回の大掃除の実施 (4) 事後アンケート等による結果分析	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・毎日の検温・手洗い・消毒等による感染症対策 ・健康診断の実施と治療のための受診サポート ・使用教室及び使用設備掃除と日常点検の徹底 ・「ほけんだより」の毎月発行、「命を守る訓練」、「救急法講習会」の実施	④ 生徒及び職員の生命・安全・健康を守ることができたか。 ⑤ 検診後の健康状態の把握と健康改善のサポートはできたか。 ⑥ 学習環境の整備ができたか。 ⑦ わかりやすい「ほけんだより」の発行と効果的な「命を守る訓練」、「救急法講習会」が実施できたか。	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
11 成果・課題	○感染症対策は保健指導(パワーポイント使用、資料配付)などを積極的に行い、自ら進んで感染症対策を実践できる生徒が増加した。健康観察カードの提出率も増加したが真の報告ができるようにさせたい。 ○感染症対策を講じながら、命を守る訓練及び救急法講習会を実施することができ、自分の命は自分で守るための意識向上と技能を身につけることができた。 ▲健康診断の実施は学校医・学校歯科医と連携をとりながら実施できた。しかし、歯科治療が昨年度より治療受診者が減少した。保護者と連携を取りながら受診するようにさせたい。	
12 来年度に向けての改善方策案	・健康観察の簡略化及び徹底のため、サーモカメラや体温計購入をしていただき負担が軽減されたが、健康観察方法が真の報告でないため、報告方法を改善する必要がある。 ・各健康診断後の治療のための受診サポートを担当、保護者と連携して強化する。	

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年1月27日(書面開催)

・コロナ禍で、本来の学習にも多くの制約が出ていることは十分承知しておりますが、定時制課程の学習指導上可能であれば、生徒全員で取り組めるようなもの(例えば、物作り、ボランティアなど)があると、コミュニケーション、人作りにつながるのではないかと考えます。

# 令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書【最終報告】

関市立関商工高等学校 定時制課程 学校番号 63-10

## I 自己評価

1 学校教育目標	「至誠明朗」の校訓を体し、知・徳・体の調和のとれた創造的・人間性豊かな実践力のある地域社会人の育成を図る。	
2 評価する領域・分野	◇ 機械科	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・もの作りに興味があって入学してくる生徒は、ほとんどいない。保護者も機械の技術や技能を身に付けさせたいという気持ちよりも、4年間で高校を卒業させたいという思いが強い。専門性の高い工業教育よりも安全教育・基礎基本を重んじた生徒の育成を図る指導を実践し、保護者の期待に応えたい。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇教科指導の充実 ◇基本的生活習慣の定着を図る生徒指導 ◇一人一人の生徒をよく観察し、全職員で共通理解を図り協働して生徒の育成にあたる。 ◇家庭や雇用主との連携を強め、生徒への応援態勢を確立する。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・職員会議、機械科会議、工業科研究会、週3回の職員連絡会	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 工業人としての望ましい態度や習慣の育成 (2) 事故防止と安全・衛生教育、安全管理態勢の確立 (3) 職業指導の推進	(1) 授業規律の励行と欠席欠課時数の減少 (2) 挨拶ができ学習環境の保持ができる (3) 家庭や職場における生徒の様子が把握できる。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・あらゆる機会を捉えて生徒一人一人を正しく深く理解し、信頼と愛情のある指導に努め、個々の生徒に応じた指導と助言を行う。 ・学習環境の整備と清掃と安全に行動するための安全管理・安全教育（整理、整頓、清潔、清掃等）の徹底 ・勤労観・職業観の育成（勤労学生の推進）と各種資格検定への積極的な取り組みと指導体制の確立	①職員が組織的に取り組み、互いの理解や協力が得られたか。 ②挨拶など生徒の基本的な生活習慣が向上したか。 ③授業規律が保たれ、生徒の積極的な授業参加が見られたか。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	本年度も実習等授業中での事故もなく、安全に授業が実施できた。感染防止のため、実習室や共同で使用する保護めがね等実習用具の消毒にも心がけた。本年度ICT機器も整備され、ICTを駆使した分かりやすい授業が展開できたと思う。 その反面、本年度も新型コロナ感染拡大の影響で、名古屋モーターショーが中止になったり、地元の工場見学も実施できなかつたりと、体験的な活動ができなかったのは残念である。	
12 来年度に向けての改善方策案	もし来年度以降、コロナの感染が治まって名古屋モーターショーが再び開催されるなら、名古屋モーターショー見学を再び実施していきたいし、地元の工場見学も再び実施していきたい。 今後、より一層充実したICT授業を展開していくために普通教科のように、工業関係の各科目のデジタル教科書、デジタル指導書等が教科書出版会社から出版されることを望みます。	

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年1月27日（書面開催）

・座学ではない実習科目は生徒も興味を持って取り組むと思います。その実習科目で、安全教育を重んじていくことは、生徒の育成にも大いに役立つと考えます。今後ともご指導よろしくをお願いします。
--